

外傷全身 CT 撮影における被ばく線量 (CTDIvol と DLP) の実態調査 2022 WG

班長 宮安 孝行

所属：神戸赤十字病院 放射線科部

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 3-1

E-mail: research.traumapanscan@gmail.com

外傷全身 CT 撮影における被ばく線量 (CTDIvol と DLP) の実態調査 2022 活動趣意書

謹啓

皆様方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2017年に我々が行った「外傷全身 CT 撮影の被ばく線量実態調査」が基になり、医療被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) が新たに発表した日本の診断参考レベル 2020 (Japan DRLs 2020) には「外傷全身 CT」の診断参考レベルが初めて掲載されました。

外傷診療において CT による画像診断はもはや必須の検査であり、その有用性は誰もが知るところではありますが、それに伴う患者被ばくについては更なる検討が必要と考えています。また診断参考レベルが発表された効果を検証すべき時期にも差し掛かっています。

前回同様、全国に登録されている救命救急センター290施設 (日本救急医学会 HP 参考 20201210 現在) を対象として、外傷全身 CT を撮影された症例の CTDI、DLP を調査し、国内における外傷全身 CT 検査の被ばく線量の実態調査を行いたいと考えております。このデータを基に新たな線量指標の策定を考えております。

つきましては、まことに恐縮ですが下記の要綱で調査を実施する予定です。皆様におかれましてはご賛同いただき、成功に導くためご支援いただきますようお願い申し上げます。

謹白

記

- 調査名 : 外傷全身 CT 撮影における被ばく線量 (CTDIvol と DLP) の実態調査 2022
- 調査方法 : アンケート調査
- 調査施設 : 全国にある救命救急センター290施設および協力可能施設
- 調査期間 : 2022年12月31日 (土) まで
- 各施設での調査症例数 : アンケート期間内の直近30例以上 (少なくとも20例以上)
- 調査項目 : 外傷全身 CT の撮影条件、対象症例の被ばく線量 [CTDIvol [mGy]、DLP [mGy·cm] の連続変数の要約 (最小値、25%値、中央値、75%値、最大値)]
- 研究班構成員 : 班長 神戸赤十字病院 放射線科部 宮安孝行
- 副班長 りんくう総合医療センター 放射線技術科 藤村一郎
- 班員 国際医療福祉大学成田病院 診療技術部放射線科 五十嵐隆元
- りんくう総合医療センター 放射線技術科 西池成章
- 北海道 札幌医科大学附属病院 放射線部 小倉 圭史
- 東北 福島医科大学附属病院 放射線部 田代 雅実
- 東北大学病院 放射線科 小野勝範
- 関東 国立病院機構水戸医療センター 放射線科 田中 善啓
- 中部・北陸 名古屋第二赤十字病院 放射線科 大保勇
- 中四国 岡山大学医学部附属病院 医療技術部 赤木憲明
- 九州・沖縄 済生会熊本病院 中央放射線部 坂本 崇
- 済生会熊本病院 中央放射線部 高本 聖也